

非財務データ

ESGハイライト(2021年3月期)

	単位	2018年度	2019年度	2020年度
温室効果ガス ^{※1} の排出量	千CO ₂ -トン	5,959	6,116	6,091
水の使用量 ^{※1} (取水量と循環水量の合計)	百万m ³	2,216	2,278	2,475
従業員数 ^{※1}	合計(うち日本以外)	21,735 (13,354)	22,783 (14,118)	24,069 (15,321)
休業災害度数率 (100万労働時間当たりの休業災害発生頻度) ^{※2 ※4}	%	0.22	0.28	0.19
離職率(自己都合のみ) ^{※3}	%	0.7	0.7	1.0
育児休業取得者(女性)／(男性) ^{※1 ※5}	人	100／90	91／71	66／84
女性管理職の人数 ^{※1}	人	392	433	517
廃棄物発生量 ^{※2 ※6}	千トン	105.1	102.8	99.2
廃棄物再資源化率 ^{※2 ※6}	%	69.9	69.2	67.8

2020年度より一部集計対象範囲を変更しております(同様に2018年度、2019年度も変更)。各項目の集計対象範囲は以下の通りです。

※1：【集計対象範囲】信越化学および連結会社

※2：【集計対象範囲】信越化学および国内連結会社

※3：【集計対象範囲】信越化学単体

※4：暦年で集計

※5：育児休業期間は各国の法律にのっとっているため、国によって異なります。

※6：廃棄物は国によって基準が異なります。

外部からの評価

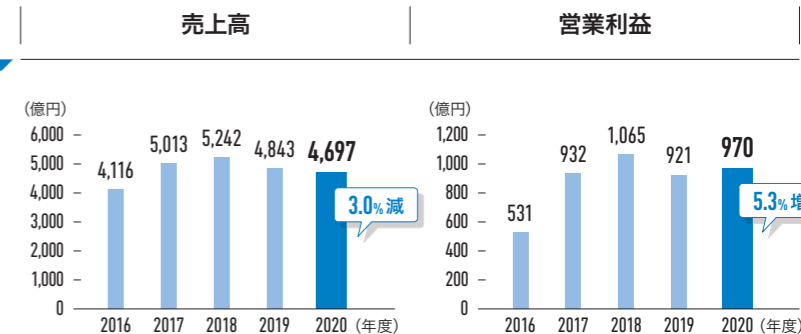


※信越化学工業株式会社のMSCIインデックスの組み入れ、およびMSCIロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社による信越化学工業株式会社のスポンサーシップ、推薦またはプロモーションを意味するものではありません。MSCIインデックスは、MSCIの独占的財産であり、その名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

事業一覧

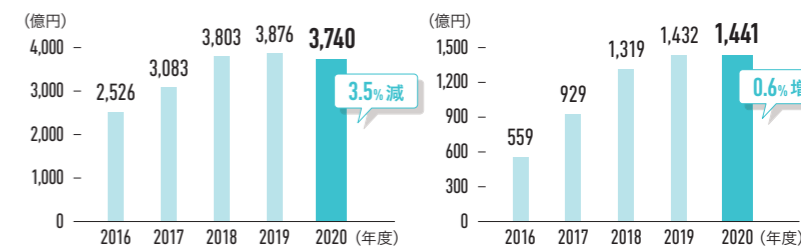
塩ビ・化成品事業

米国のシンテック社において、フル操業を継続し、塩化ビニル、か性ソーダともに高水準の出荷を維持しました。同社は4～5月の経済活動制限による市況下落の影響を受けましたが、その後世界的に需給が引き締まり値上げを実施しました。欧州拠点および国内拠点も販売数量の維持に努め、市況の改善を享受しました。



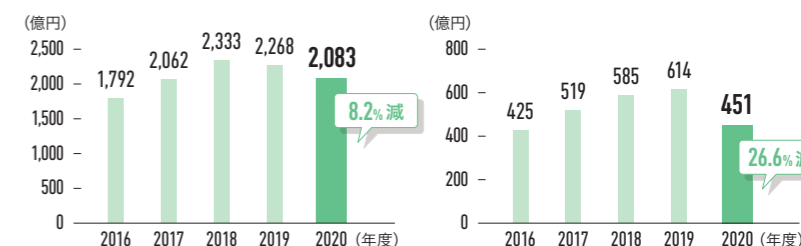
半導体シリコン事業

経済活動の再開に伴い、需要が増加しました。



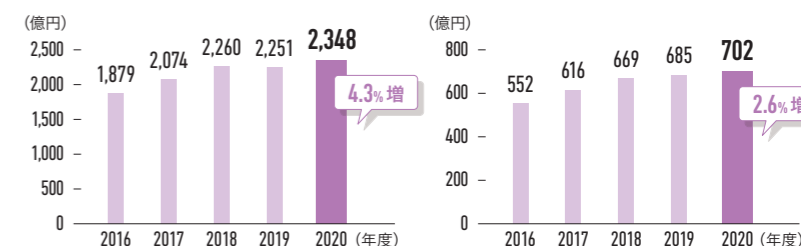
シリコン事業

汎用製品の価格下落に加え、化粧品向けや車載向けの需要鈍化の影響を受けました。秋口から顧客需要が復調し始めました。



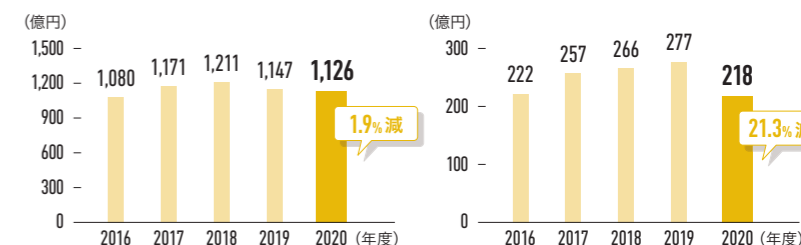
電子・機能材料事業

希土類磁石は、第1四半期当初経済活動制限により一時海外工場の稼働が影響を受けましたが、下期に入り、車載向けは強い回復を示し、ハードディスクドライブ向けも好調に推移しました。フォトレジスト製品は、ArFレジストやEUVレジストを中心に好調を継続しました。マスクブランクスも先端、汎用用途ともに堅調に推移しました。光ファイバー用プリフォームは市況悪化の影響を受け厳しい状況が続きました。大型パネル用フォトマスク基板は需要鈍化の影響を受けました。



機能性化学品事業

セルロース誘導体は、医薬用製品は底堅く推移しましたが、建材用製品が振るいませんでした。フェロモン製品やパパール製品は出荷が低調に推移しました。



加工・商事・技術サービス事業

信越ポリマー社の半導体ウエハー容器の出荷は堅調でしたが、自動車用入力デバイスが自動車市況悪化の影響を受けました。

